



FA コーチ(技術担当専任)通信

2023.8.7

長野県サッカー協会技術委員会

JFA ユニクロサッカーキッズ in 長野

7月9日(日) サンプロアルウィンにて昨年に引き続きJFA の主催事業である JFA ユニクロサッカーキッズ (USK) in 長野を開催しました。昨年はコロナの影響もあり、午前中のみで開催でしたが、今年は本来の姿である午前・午後の2部制で実施することができました。USK in 長野の参加対象は6歳以下の未就学児(年中・年長)で、申し込みはチーム単位・個人のいずれかです。チーム参加は少年団やクラブというサッカーのチームがそのままということもありますが、保育園や幼稚園単位での参加もありました。

参加者	チーム参加 (人数)	個人参加 (人数)	合計人数 (人数)	チーム数	来場者数
午前の部	118人	47人	165人	24チーム	550人
午後の部	54人	42人	96人	16チーム	スタッフ総数
合計	172人	89人	261人	40チーム	164人

今回のUSK in 長野の試合形式は、1チーム6名~10名程度で編成。5人制(GKなし)のミニサッカー。ピッチサイズは20m×12mでミニゴールを使用。試合時間は前半5分、後半5分で行いました。

チームとして申し込みをしたチームと、個人で申し込みをした子どもたちを6人から8人を目安に当日の即席チームとして編成し、あわせて4チームを1グループとしてその4チームで総当たり戦を行う形式のフェスティバルです。試合結果は記録せず、ピッチマネージャーと呼ぶ役割の担当者が、どの子にもボールに触れられるようにしながら、ゲームの進行役を務めました。

またキッズアトラクション(キックターゲット)も用意され試合を待っている間も子どもたちが楽しめるよう工夫されています。

当日は台風の影響なども心配されましたが、午前午後あわせて250名を超える子どもたちがフェスティバル形式で実施される中で、サッカーを楽しんでくれました。



USK ゲームの様子 5vs5 GKなし

グラスルーツ委員長 篠原裕一さん(全体統括)

当日は天候が危ぶまれた為、様々な対応を想定していましたが、運営スタッフ皆さんのフレキシブルな対応により、スムーズに開催できて本当に良かったです。特に午後の部においては、開会式、試合等をうまく圧縮して参加者が雨にあたらずプログラムができたことは、サッカーとの良い出会いの場を提供できたのではないかと考えます。

Japan's way や NFA のビジョンにもある「サッカーファミリー拡大」において、「サッカーとの良い出会い」をつくることは最重要だと思えます。その出会いの場として、JFA が持っている大きなコンテンツ「JFA ユニクロサッカーキッズ」は保育園・幼稚園巡回指導とならび大変有効な手段だと感じています。



(全体ミーティングであいさつする篠原委員長)

巡回は長野県内の子供が必ず一度はサッカーのコーチと一緒にサッカーをする事を目標にしていますが、USK のようなフェスティバルは、保護者や家族の方が一緒に参加(観戦)してくれることで、より幅広い年代にアプローチできるチャンスがあります。長野県にサッカーが溢れている日常をつくるためにも、USK に限らず各地区でのフェスティバルを充実させていくことや、USK 形式の長野県版を企画開催する等、取り組みたいと考えています。また、県の育成強化の土台もここにあると強く感じるので、今後4種や女子のみならず2種・3種の指導者のみなさんともフェスを開催できればと思います。

このフェスティバルを支えてくれたのは多くのボランティアの皆さんです。グラスルーツ委員会、競技運営委員会、技術委員会、女子委員会の協会メンバー、松本市連合会のみなさんや女子チーム選手スタッフに加え、子どもたちの誘導や個人チームの引率、ピッチマネージャー補助などに学生や高校生、女子中学生などがボランティアとして参加してくれたおかげでこのイベントができました。子どもたちの準備運動としてのダンス体操を企画・立案・指導してくれたのは松本短期大学白金ゼミの学生の皆さん。松本国際高校、須坂創成高校サッカー部の皆さんはピッチマネージャー補助やアトラクションを担当し、子どもたちがボールとの触れ合いを楽しめるよう積極的に関わってくれました。受付や弁当配りなどのピッチ外作業、子どもたちの見守りは東海大諏訪高校女子サッカー部、FC シュロス等の選手みなさん

が担当してくれました。これらボランティアの力の結集が、子供たちの笑顔につながったのだと思います。

大学2年 女 (チーム誘導、ダンス見本担当)

たくさん子ども達と関わることができとても楽しかったです。子ども達がサッカーをしている姿はたくさん笑顔がありとても輝いていて楽しそうにしている姿をみることができて嬉しい気持ちになり、頑張ろうと思える力も貰えました。最初は緊張していた子どもだんだん打ち解けて自分から話してくれることが増えて嬉しかったです。とっても楽しかったです。ありがとうございました！



スタンドからピッチへ子どもたちを誘導する学生ボランティア

ボランティアスタッフの事後アンケートから

大学2年 男 (チーム誘導、見守り担当)

子供たちが楽しそうにサッカーをしている姿を見て、事前準備や当日での子供たちへの指示など、運営する側の皆さんの協力があっておかげだと思ひ、その中に自分も携われてとてもいい経験ができたと思います。力仕事など、運営の方の役に立てたと思うと今後このようなボランティア活動があった時には是非参加させてもらいたいと思いました。

大学2年 女 (チーム誘導・見守り担当)

自分のチームの子達がスムーズに動けるように、次の試合の予定を早めに伝え見通しを立てられるような声掛けを心がけました。また、子どもがトイレに行きたくなくなったり、水が無くなってしまったりした時は同じチームの大学生や中学生と連携を取り、臨機応変に対応することが出来ました。なかなか試合に出たがらず、ほとんど応援をしていた子がいましたが、なんとかやる気を引き出すような声掛けをし、最後一緒に私と手を繋いで試合に出てくれて、それをお父さんに嬉しそうに報告していた場面を見た時は凄く感動しました。

大学2年 女 (ダンス、チーム誘導担当)

子どもたちが楽しんで体を動かしている姿が印象的で、体を動かすことが好きになれそうなイベントだと思ひ、子どもたちとの関わりから勉強になる部分が沢山あったイベントでした。

高校2年 男 (アトラクション担当)

普段関わることが少ない子供達と関わることができて貴重な体験でした、子供達とあまり関わらないのでしっかりと楽しんでもらえるか不安でしたが、子供達の楽しそうにしている姿を見て安心して、少し自分にも自信が持てたと思います。



アトラクション (キックターゲット)

高校1年 女 (受付担当)

代表者の方にしっかりと説明出来て良かった。色々な人と関わることができ、すごく楽しかった。またやりたいと思った。

中学1年 女 (個人誘導、ピッチ補助)

すごく楽しかったです。他の学年の人や他のチームの子達とやれてすごく団結力を感じました。みんな積極的にお手伝いやサポートをしていたので良いと思いました。

参加保護者から (JFAの事後アンケート)

- サッカー未経験どころか、ボールすらしっかり当てて蹴れない4歳児の息子でしたが、今回初めて知らないお友達同士のチームでプレーする事で成長や将来の何かのきっかけになればと思ひ、思い切って応募させて頂きました。スタッフの方に連れられて行った時は不安そうな顔で本当に大丈夫かと心配でしたが、いざゲームが始まるとお友達同士で会話をするところや笑顔が見られて、また肝心のサッカーボールにもたまに触れて蹴ることが出来、終わった後の「楽しかった!!」のひと言に全てが込められていて本当に参加させて頂き良かったと思ひました。親としても子供の初めての経験を一緒に体感できて嬉しかったです。またこのような機会がありましたら参加させて頂きたいです。帰りに早速、サッカーボールも買いました!これから楽しく遊んで欲しいです☆
- 未就学児が試合をできる機会はほとんどなく、初めての試合で、悔し涙をする子どもの姿に、成長を感じました。とてもよい経験になったと思ひます。そして、普段入ることの出来ないアルウィンのフィールドで、サッカーが出来ることに感動しました!!とても貴重な経験、ありがとうございました!!
- とても楽しそうにしていました!クラッキに会えたり、Tシャツももらえたりしてすごく嬉しそうにしています!
- スタッフの学生さん達が優しく、子どもが安心して参加できた。他のスタッフさんたちもとても感じがよく、良かった。サッカー未経験者だったが、楽しく参加することができた。

参加して下さった保護者の方からの事後アンケートの記述からも、サッカーの楽しさを伝えるための機会を継続的に、また、新たに創出していく必要性を強く感じました。さらに、未就学児だけでなく、サッカー少年団やクラブに所属していないサッカーをやりたい小学生、部活やサッカーができる環境がないけれどやってみたい中学生、高校生にもこうした機会を作ってあげられたらサッカーファミリーの拡大、サッカーを通してスポーツに親しむ人の増加につながるのではないかと思います。

2年連続でアルウィンにおいてUSKが開催できたことで運営側としてさまざまノウハウが蓄積され、経験値が高まりました。学生ボランティアにもよい刺激になっています。普及事業に関わるサッカー仲間、ファミリーも拡大してきているという事だと思ひます。

篠原グラスルーツ委員長も述べているように「強化育成の土台もここにある」ということを意識しながら、みんながサッカーの楽しさを味わう、「長野県版のゲーム形式フェスティバル」(小学生年代であれば、スモールサイドゲームフェスということになるでしょう)の開催などに発展していく(させていく)ことを県協会として進めていきたいと思ひます。

(文責 FAコーチ 鮎田 敏)